

行に支障あるときは、進んで何等かの方法を以て支出豫算の増額を企圖すべきものであり、違約金は雑収入として、正當に歳入に納入の手續を爲すべきが至當であると考へるのである。そして、此の場合に於ける收支の手續は國の相殺の手續に準すべきものであることは勿論である。

宇部市の道路事業

早 田 成 雄

要するに、請負契約義務不履行の場合に於て、請負者より徴収すべき違約金の如きは、收支混同禁止の原則に従ふのが至當であり、之が例外たるべきものではないと思惟する次第である。

宇部市は大正十年に村より一躍單獨に市制を施行して其都市發展の著しいことは既に著名のものである。此の急激な發展をした都市に於て此の間に處した道路政策を觀察することは興味あるものと考へる。

宇部市は早く全市に亘り道路計畫を樹立し其後都市計畫街路網を決定し此等の計畫が既に相當の實施を見て居るのである。今此等の道路築造方法を述べるに先ち少しく宇部

市發展の狀況を略述する。

發展の狀況

宇部市發展の根幹をなすものは勿論地下並に海底に埋藏される石炭の採掘によるもので、この仕事は徳川時代より行はれて居たが明治初年に於ても尙ほ小規模に過ぎず、當時の宇部村の人口も約五千人程度のものであつた。其後一

般商工業の發展に伴ひ又當地の人々の非常なる愛郷的努力により次第にその組織施設が擴張され現在に於ては沖の山炭坑、東見初炭坑を初めとし年額二百數十萬噸の出炭を見るに至つたのである。而して此の石炭鑛業は殆んど郷土事業として土着民間に發達したもので此の利潤を以て他の事業を創設するに至り、大正の始より次第に大工業會社の設立を見るに至つた。而して此等の工場の設立される工業地は石炭採掘の廢土を以つて海面を埋立て自由なる設計のもとに廣汎なる埋立地を作り港灣運河の施設をなし理想的に作つて居るので、從來の市街地と確然と區劃されて居る。

此の埋立地も最近の景氣により諸會社の創立増資により工場の設立多く益々工業地としての發展を來すに至つた。今宇部市に於ける重なる工場を記すれば左の通りである。

沖の山炭鑛 東見初炭鑛 宇部紡績
 宇部セメント 宇部窒素 日滿マグネシウム
 宇部曹達 日本硫酸 チタン工業
 縣電發電所

斯様に炭坑並に工業の發展を來したに伴ひ市街地の家屋増築次第に多く人口も左表の通り躍進的に増加を來すに至つた。

年次	人口	指數
大正元年	一六、七五八	一〇〇
大正五年	二三、五七二	一四一
大正九年	三八、〇六三	二二七
大正十四年	四八、七五〇	二九二
昭和五年	六五、六〇一	三九一
昭和十年	七六、六四二	四五七

道路築造の方法

斯様な都市の發展は必然的に街路の新設を要求したもので、市民に交通系統の統制及整備の必要を痛感せしむるに至つて、大正十二年に市會に於て市街地の道路網計畫を設定議決した。そして此の計畫を實施するために其計畫道路に該當する土地所有者は道路敷を無償にて市有地に寄附し又家屋建築者も自發的に計畫道路幅より後退して建築する

ことを申合せた。そして此の申合は頗る確實に實施されその爲め道路の新設は低廉なる經費で出来るので、遂次道路の築造を見市街地は面目を一新するに至つた。そうして此の申合は宇部市民の愛市公共的美風として今に實行されて居る。

然るに此の當時の計畫道路は發展に次ぐに發展を遂げつつある都市の街路計畫として再検討をなすを要し、將來性ある大工業都として都市計畫街路網の決定の要に迫られ、昭和八年に大體従前の計畫を骨子とし又近隣の連絡關係を考慮し新に都市計畫街路網の決定を見るに至つた。其路線數二九、總延長六一、九九三米、工費概算約六、四〇〇、〇〇〇圓のものである。

都市計畫街路網決定と共にその計畫は所謂建築線として法的に働き、即ち家屋建築に際し計畫線を突出して建築することを許されず従來の申合に加ふるに此の法的制限力を加へ假設建築物は一個も許可せずして總て計畫道路幅に後退して建築されて居る。

而して此の決定を見るや時恰も時局匡救事業の時期に會し、直ちに其一部を施工するに至り都市計畫路線中相當の實現を見るに至つた。そうして施行路線は多く郊外地又は比較的家屋移轉少き線を施工された。尙ほ此の實施に當つても道路用地は總て所有者の寄附によつたので非常に低廉な工費で出來た。

尙ほ工費等の關係で決定路線の全幅を施工出來ない場合には幅員を狭め施工されて居る。此の場合も家屋建築に際しては矢張り計畫全幅まで後退して居るので所謂假設建築物は一切無い状態である故將來計畫幅に擴幅施工も容易である。

都市計畫街路の既に完成された程度は左の通りである。

都市計畫街路竣工歩合

都市計畫街路	竣工(工事中) (ヲ含ム)	計畫ニ對スル 竣工歩合
延長 工事費概算	延長	延長 工事費
六、九九三 ^米	六、四三三 ^円	一八、四七〇 ^米
	九九三 ^米	七、七六三 ^円
		元%
		三%

街路網決定後三年餘で延長に於て計畫路線の三割近くの竣工を見て居るのは宇部市の財力並に發展に伴ふ街路新設の必要に迫られた事によるのは勿論であるが、従前述べた宇部市の従來の道路新設に當つて申合せを實行して居ること、都市計畫路線の有する制限力を充分活用して居る處にあると思ふ。

三重を貫く

上井 萍 人

伊勢大橋、熊野大橋已に成つて、愛知、和歌山と提携した三重は、更に紀勢を阻むだ天嶮「矢ノ川峠」を開鑿して、首尾全く一貫し、桑名から新宮まで二二〇キロ、九時間のドライブを可能ならしめた。

伊勢神宮と吉野熊野國立公園の大景觀を三時間で連繫し

又此等の道路工事が皆都市計畫事業として施工されたものではなく他の事業で施工されたのである。

發展性著しき都市に於ては何れにしても早く道路計畫を樹立して道路築造の基準とし、一方家屋建築の制限をなし將來の工事費の低減を計ると云ふ事が非常に効果があると云ふ事は宇部市の例を見ても痛切に感じるのである。

た。

此大動脈の躍動は、三重の全軀、毛細管の末梢まで反映して、「觀光は先づ道路から」の時代モットーを如實に、皇紀二千六百年を控へ神都計畫と呼應して、千古の原始林、翠巒碧波に迫る奇岬の神秘境に芳醇な建國以來の繪巻物を